

ふもと 織姫山の麓から

法玄寺報
第33号
平成30年春

良順上人の五十回忌

1月21日の日曜日、当山第二十二世の和田良順上人とその室センの五十回忌が本堂で行われました。導師は太田長念寺の稲村博道上人で、寺院関係者や当山役員など35人が参加しました。

なお法要後、蓮岱館に移動して、お齋を兼ねて毎年恒例の役員による総会と新年会を行いました。

良順上人は大正7年に法玄寺の法灯を受け継ぎ、第二十二世になりました。その前には現在の松本市の法蔵寺の住職を務めていました。松本に居るとき、一宗一寺の力には限界があると思い、他宗派と合同で南安仏教会を組織して、仏教界全体として活動を行いました。この経験を活かし、足利に来てから当時の足利町にあった十七か寺による足利仏教和合会の中心として宗派を超えた布教活動を行います。

また女子教育の重要性を理解し、織姫山にあった当山の敷地を無償で提供して、和合会の寺院の方々と共に足利実践女学校を創立することにります。設立の資金を集めるため、

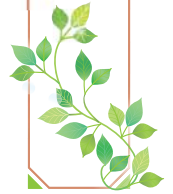
和合会の寺院の住職達は足利市内を托鉢に回りました。托鉢では、当山の檀家である足利館、蓮岱館、相洲楼などが食事を提供してくれたと聞いています。こうして足利実践女学校が和合会寺院の努力により開学しましたが、良順上人は一切の役職に就くことはありませんでした。まさに「陰徳を積む」という生き方をされた方でした。

この足利実践女学校が今日の足利工業大学に発展し、今年4月から足利大学になります。その礎石を築いたのが良順上人でした。



▲良順上人の五十回忌法要で挨拶する住職

木の伐採



お盆の後で山の墓地にある大きなナラの木が倒れ、たいへんな被害がでました。今後このようなことが起きないように、前回の寺報でお知らせしたように樹木医に診断をお願いしました。これにもとづき、葉を落とした二月に倒れるおそれのある樹木を伐採することにしました。伐採対象は、以下のようです。

伐採 6本

強剪定 6本

枯枝剪定 2本

ここで強剪定とは、大きな枝を切り落とすことです。何しろ山の墓地にあるため、強剪定をしないと枝の重さで木が前に傾き倒れます。

木の下には墓地があるため、単に切ると落下して墓地を損傷します。そのため枝にロープを掛けてから切り、

吊したまま材木置き場まで運ばなければなりません。織姫神社の下にある大きなナラの2本の木については、神社の下にある通路にクレーンを置き、切った枝をクレーンにより吊して運び出しました。クレーンに枝を吊すた



▲クレーンを使い、切った枝を吊るして運びます。

め、切り落とす枝にロープを結ぶ作業が必要となり、作業員が木の先まで登ります。重機を使うにせよ、やはり手間のかかる作業です。

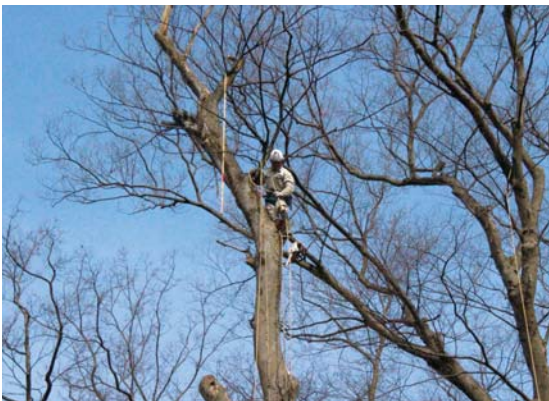
空師による伐採



空師という仕事があるのをご存知でしょうか。寺院や境内など、重機を入れて自由に木を切れないような場所で、軽業師のように木に登り木を切る仕事を行う人のことです。

樹木の伐採や剪定では、昨年の夏に倒れたナラの木の処分を依頼した栃木県総合緑化センターに依頼しました。ただ6本の木については、空師の中澤重夫さんをお願いしました。空師として知られた方で、大きな欒を含め2本の木を切るとともに4本の大きな枝をたった4日もかからず切り落としました。

さすがにベテランで、重いチェンソーを持って軽々と木に登り、次々と枝を切り落としてはロープに吊り下げて降ろします。下から見てみるとヒヤヒヤしいていましたが、さすがプロの技と感心しました。



▲木を切っている空師の中澤さん

山の水道管の寒さ対策



今年は何十年ぶりの寒さで、足利でも最低気温が氷点下の日々が続きました。このため水屋にも厚い氷が張りました。このようなことは近年にはなく、いかに今年の寒さが厳しいかわかります。

水が凍るので、境内に設置した水道管が凍結するおそれがあります。そこで水道を扱っている檀家の島田商事さんをお願いして、境内にある水道について凍結防止栓を取り付けました。この栓にすると凍結を防ぐことができます。しかし、この栓にはホースを付けることができませんので、手桶に水を入れるには不便です。皆様にはご不便をおかけしますが、凍結を防ぎ、水道を使用できるようにするための措置なのでご理解をお願いします。

なお暖かくなり凍結のおそれがなくなりましたら、元のようにホースを付けることができます。春のお彼岸の際には、これまで通り墓地の水道からホースで手桶に水を入れることができます。



▲凍結防止栓を水道に設置

ヒヨドリ対策



近年、毎年冬になると鶇（ヒヨドリ）が庭を荒らします。いつか牡丹の芽を全部食べられて、花が咲かない時もありました。冬は餌となる昆虫もなく、ヒヨドリとしては食べられそうな物は何でも食べようとします。庭の中でも、特に苔を荒らします。どうやら苔の下にいる虫を捕ろうとしているようです。

ヒヨドリ対策として、最初バードワイヤーを張りました。マンシヨンのベランダで鳩の糞害対策として、手摺りにワイヤーを張ることに做ったものです。しかし効果はなく、次に猛禽であるフクロウの人形を庭に設置しました。最初は怖がってヒヨドリも来ないのですが、ヒヨドリも利口で1週間もすると人形であると見破り、また庭を荒らすようになります。仕方なく防鳥ネットを張ることにしました。



▲ヒヨドリの被害を防ぐため防鳥ネットを張りました

ただ防鳥ネットを張ると苔を保護できませんが、苔の間に生えてくる雑草まで保護することになり、春になり防鳥ネットを取り外した後の雑草取りが大変です。何かいい方法はないでしょうか。

新総代に小泉信秀さん

昨年の年末に、総代の長谷川浩一さんが逝去されました。長谷川さんは総代として26年間、最後の2年間は筆頭総代として当山の護持のために尽力して下さいました。このような功績に対し、葬儀の際には浄土宗門跡より弔辞が届けられ、住職が代読しました。



▲新総代になった小泉信秀さん

なお新総代として、香雲堂本店の店主の小泉信秀さんが選任されました。香雲堂といえば古印最中、足利名物として全国的に知られています。また香雲堂は相田みつをさんとの関係でも有名で、包装紙は相田さんのデザインしたものですし、お菓子の箱にも相田さんの葉が入っています。

なお皆様にお届けしている浄土宗新聞では、毎月全国にある浄土宗寺院の檀家のお店を紹介しています。去る1月に香雲堂が取材されました。間もなく浄土宗新聞に掲載される予定ですのでご覧下さい。

鷹匠が来る

近年、冬になるとヒヨドリにより庭の苔を荒らされ困っていました。そんな時、金沢市では駅での鳩の糞害がひどいため、鷹匠を利用して鳩を駆除したことを知りました。そこで当山でも鷹匠を使ってヒヨドリを追い払うことを思いつきました。

ヒヨドリについては何とか防鳥ネットを張り、防ぐことができました。ただ鷹の飛ぶ勇壮な姿を眺めたいし、また平安時代から伝わる日本の伝統の技である鷹匠を子供達に見てほしいと思いました。そ



▲鷹を扱う鷹匠衣装のパンク町田さん

こで千葉の鷹匠に連絡して、来てもらうことにしました。鷹匠は畑止憲さんの後継者とも言われるパンク町田さんです。鷹の飛翔だけでなく、鷹の飼育や鷹匠の歴史や衣装などについても説明して頂きます。皆様、ぜひお子様連れでお越し下さい。

日時

3月31日(土)
午後1時半より

場所

当山境内

*無料で、どなたでもご覧いただけます。

駐車場

境内には駐車できません。山門前、両毛新聞社側、織姫神社前、旧西小学校、巴町市営駐車場をご利用下さい。